

# 支部だより

## 愛知県豊橋支部

### 愛知県豊橋支部の 総会及び中部 ブロックの開催



愛知県豊橋支部の総会が六月三十日、豊橋市藤澤町のロワジールホテル



豊橋で開かれ、春季善行表彰伝達式が行われたほか、今年度の事業計画などを承認した。

また、中部ブロック会を開催し、愛知県、福井県、金沢、浜松、御殿場支部の会員ら六十人が参加、各支部代表者による意見発表と意見交換などを行った。

## 群馬県前橋支部

### 設立二十周年 記念式典を開催



前橋支部では六月九日市内の会場で、山本前橋市長・塩崎前橋市教育長・本部高田副会長・島村関東ブロック交流



ご来賓の山本市長様の祝辞



一般社団法人日本善行会前橋支部 創立20周年記念式典



一般社団法人日本善行会前橋支部 創立20周年記念式典

会会長・先輩支部の高崎松本、桐生川村支部長・田中前橋警察署長・藤井前橋東警察署長を始めとする多くの関係者のご参加をいただき、これまでの奉仕活動に対する

励ましの祝辞など賜り、二十歳の記念式典・祝賀会を開催しました。会員、関係者を含み総勢百二十名が参加し、盛大な会となりました。

記念事業では、市内社会福祉協議会様に福祉事業の一助にと二十二年に因み二十万円をご寄贈させていただきました。

記念祝賀会では、本部芸能奉仕団皆様の祝芸や地元音楽愛好団体の応援ミニコンサートをご披露頂きました。また、全国紙や本部、明るいニュースでも話題になりそのラ

## 東京都渋谷支部

### 第二十四回 渋谷区支部総会

六月二十三日渋谷区支部第二十四回総会を、渋谷区代々木の全理連ビルで会員十七名の参加を得て開催。来賓として轟豊蔵台東区支部長様、元角昌三西東京支部長様をお迎えした。今回の大きな議題は支部長の引継ぎと役員

の選任であり、前年度総会において予告されていたとおり支部長は七十六歳の石毛利雄より五十八歳の石毛義朗へ引き継がれた。支部長の大幅若返りである。

これにより渋谷区支部第五代目支部長が誕生した。日本善行会の悩みの一つでもある高齢化を解決

するためには渋谷区支部はその先陣を切って若い支部長のもと革新的な支部運営と若者たちの会への参加を積極的に行うこと

これも初めてのことであるが轟台東区支部長様と元角西東京支部長様に特別顧問にご就任頂き石毛義朗体制をバックアップしていただくこととなった。

石毛利雄前支部長は本部理事として日本善行会の発展のためさらに尽くすこととした。

## 福岡県福岡支部

### 平成三十年度福岡 支部総会・春季善行 表彰伝達式開催

福岡支部の平成三十年度総会・春季善行表彰伝達式を、平成三十年六月二日(土曜日)太宰府市五条三丁目一番一号所在の太宰府市いきいき情報センターにおいて開催した。総会での鳥巢支部長挨拶では、福岡支部設立後各分野にわたって多くの人が受賞されているが、会員入会者は一割に満たない状況で、入会されてもすぐ退会、昨年は三名の入会者に対して四名が他界され、会員数は若干減少傾向にある。支部の

基盤である会員増強に向けて、会員一体となって取り組んでいくので皆様のご協力をお願いしますと挨拶。

その後会食となり、新会員の自己紹介・会員相互の紹介等で盛り上がり、和気あいあいの中、融和団結を誓合つて親睦を深めた有意義な総会・表彰伝達式であった。

挨拶。引き続き福岡支部の顧問で特別会員の井上保廣元太宰府市長・原田義昭衆議院議員・会員で原田久美子太宰府市市議会議員から祝辞を賜り、続いて勝野野介日本善行会会長等の祝電披露後総会に移り支部長が議長を務めた。一号議案「五号議案の全議案が審議され全てが承認された。最後に宇土支部(山下八郎支部長)主催の九州支部協議会開催について説明があり、総会終了後、支部長から善行表彰受賞者に表彰状・善行章が手渡され、記念写真撮影で、総会・表彰伝達式が無事終了した。

# ふる里白慢

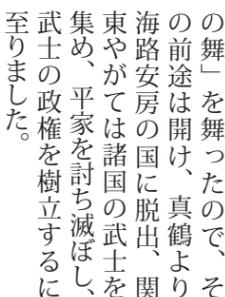
## 小田原支部

### 焼亡の舞

この舞は、湯河原駅前立つ銅像、湯河原の豪族土肥実平が舞ったと伝えられているものを再現したものです。今を去る八百三十八年の昔、治承四年八月二十三



日、源頼朝は、北条時政土肥実平等三百騎を従え、小田原郊外、石橋山に源氏再興の旗を挙げました。しかし大庭景親率いる平家軍三千余騎の攻撃に敗れ、土肥に退き追いつがる敵勢を討ち払い、土肥の榎山奥深く逃れました。地形に明るい土肥実平の進言により、敵の目をばばかり、わずか七騎となった頼朝主従は、巖窟や大木の洞に隠れ小道地蔵堂や箱根権現にかくまわれ数日過ごしました。この間、平家方は頼朝を



捕らえんものと全山くまなく探し回ったのですが、その姿さえ捉えられず、御大将頼朝は戦いに利あらずとして自害し果てたものと考え、搜索を断念し、それぞれ帰国の途につきました。

この時、平家方にあつた伊東祐親は伊東に帰る途中で、土肥の館に火を放しました。

これを山上から見た実平は「めでたい」と舞を舞いました。実平は山伏修験の心得があり館の燃え盛る炎を「柴燈護摩」の火行と考へ山中に潜んだ数日の艱難辛苦を、山伏修行の峰入り修行の苦行ととらえ、その炎(昔は火事のこを焼亡といつた)を修行成就の浄火と見て「延年」を舞ったの

です。延年とは昔、宮中、社寺で舞われるばかりでなく、山伏修行の終わりに舞われたもので、謡曲の「安宅」歌舞伎の「勧進帳」で安宅の関の通過を許された時、弁慶が舞ったものです。実平は「焼亡」を見て延年の「焼亡の舞」を舞ったので、その前途は開け、真鶴より海路安房の国に脱出、関東やがては諸国の武士を集め、平家を討ち滅ぼし、武士の政権を樹立するに至りました。

## お知らせ

▽平成三十年度  
第三回理事会及び  
全国支部長会の  
開催について

〔日時〕  
九月十八日(火)

〔場所〕  
静岡県熱海市  
かんぼの宿

## 訂正とお詫び

七月号二面の特別表彰の金章に丸野忠義氏と掲載されていましたが、正しくは、銀章となります。善行川柳の丸野忠義氏の句中で話題弾むと掲載されていましたが、正しくは、話題弾むと掲載されてお詫びいたしました。深くお詫び申し上げます。